



とべだより

平成30年1月31日

2月号

横浜市立戸部小学校

「ありがとう」のあふれる学校に

副校長 出口 和生



毎朝、校庭で霜柱や氷を見ることが当たり前のような厳寒の頃となりました。また、校庭や道路の片隅には1月に降った大雪のなごりがあり、氷柱を見ることが出来ます。暦の上ではもうすぐ立春とはいえ、記録的な寒波にともなう寒さと乾燥が予想されていますので、保護者・地域の皆様も体調管理にはご留意ください。

職員室にいるときのわたしは、ドア近くの席にいますので、様々な用事で職員室に来る子どもたちとのやりとりがあり、楽しみにしています。今年度、職員室左側のドアにルイス先生（AET・英語活動）やタン先生（IUI・国際理解教室）をクラスまで案内する子どもたちが来るようになりました。職員室への入り方、先生への声のかけ方のわからない子どもたちには、ドアに貼ってある簡単なマニュアルを読むように声をかけます。すると、ほとんどの子は書かれている通りに「失礼します」→「お迎えに来ました」→「よろしくお願ひします」と日本語で言い、最後に英語で「Hello!」と言うようになりました。挨拶することで心と心がつながり、コミュニケーションが始まるということを感じてくれると良いなと思っていました。そんなある日、一人の子が「失礼します」と言って職員室のドアを開けた後、ルイス先生に向かって「Hello!」→「お迎えに来ました」と声をかけました。マニュアルのように最後に「Hello!」と言うよりもこの方が自然です。思わず「素晴らしい!」と声をかけると、その子は、少し考えてから「Thank you!」と言葉を返してきました。予想外の反応で自然に笑みがこぼれるとともに心が温かくなりました。この子のコミュニケーション力の高さを感じるとともに、「Thank you!」という言葉がわたしの心を温かくしてくれたことに対して「こちらこそ、ありがとう」という言葉を返していました。

「ありがとう」は、今では「Thank you!」のように感謝を表す言葉として使われることが多いですが、「有り難し」が語源となっていて「当たり前のことではない」という意味が含まれています。ある調査では、人から言われて嬉しい言葉の第1位だと言うことです。「おはよう」や「失礼します」はコミュニケーションが始まる大切な言葉、「ありがとう」は言われて嬉しくコミュニケーションが深まる大切な言葉です。日頃何気なく使っている人も、なかなかうまく言えずに「どうも」や「すみません」で済ませている人も、心から「ありがとう」と言える関係ができれば素敵ではないでしょうか。

そうした関係をつくる良い機会が学校にはたくさんあります。2月17日（土）には「とべとべファンタジー2017」が開催され、生活科や総合的な学習の時間で学習してきた成果を発表します。戸部小学校の「生活」「総合」の学習では、どのクラスも保護者や地域の皆様、商店の皆様、公共施設や学習協力企業の皆様など、多くの方にご支援をいただいて、心から「ありがとう」と言える関係を築き、学習の質を高めるとともにコミュニケーション力も高めてきました。これまでの様々なご支援・ご協力、本当にありがとうございます。とべファン当日にもぜひご来校いただき、夢の実現に向かって本気になって活動している子どもたちの姿をご覧いただき、励ましていただけましたら幸いです。